

神棚



のまつり 埼玉県神社庁

私たちの幸福のもとには家庭にあります。家庭生活の中心として神棚を設け、御神札をおまつりして、家族が心を合わせて、神々の恵みに感謝し、祖先を尊ぶことにより、明るく幸せな家庭を築いて行きましょう。

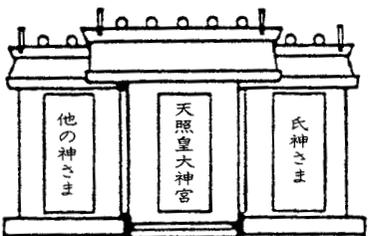
神棚とは

御神札をおまつりする施設を神棚といいます。神棚は、長押などを利用して天井から棚を吊り、注連縄を掛けて神聖な空間を区切り、その中央にお宮（宮形）を納め、扉の正面に神鏡を据え、左右に榊や灯明具などを飾ります。ただし、部屋の構造などにより、棚を吊るのが困難な場合は、飾棚や家具の上を利用して良いですし、また、柱や壁などの狭い場所に掛けられる簡易型のお宮も用意されています。設置場所は、家庭では床の間のある部屋や居間（リビングルーム）など、会社では事務所や会議室など、それぞれの生活の中心となる部屋で、お供えやおまいりがしやすい場所にします。方角は、神さまが南か東を向くのが良いとされていますが、部屋の作りによっては他の向きでもかまいません。

神棚は常に清潔を保ち、榊は早めに取り替え、いつも青々としたものを立てましょう。

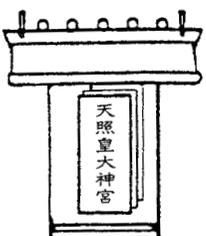
おふだのまつりかた

扉が三つの場合



中央に「天照皇大神宮」(伊勢神宮の御神札) 日本を国をお守りいただく神さまです。向かって右に 氏神さまの御神札(その地域をお守りいただく地元神社の神さまです)。向かって左に、他の神さまの御神札(特に崇拜する神さまや旅行先で参拝した神社の神さま)をおまつりします。

扉が一つの場合



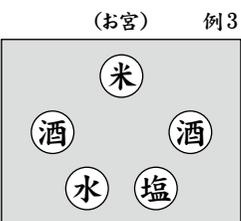
一番手前に「天照皇大神宮」(伊勢神宮の御神札)。その後ろに、氏神さまの御神札。次に、他の神さまの御神札の順に重ねます。

おまいりのしかた

神棚を拝む作法は、それぞれのやり方で良いのですが、神社参拝と同様に、二拝（二度深くおじぎ）、二拍手、（祈念をこめ）一拝するのが良いでしょう。

お供えのしかた

普段のお供えは、米（洗米または御飯）・塩・水など、毎朝新しいものを供えます。その他、季節の初物や珍しい物、お祝の品や戴き物などは、まず神棚にお供えます。神棚の広さによって左の図を参考にしてください。



注連縄の張りかた

注連縄は、ない始め（大根じめ）の場合は太い方が向って右側に来るようにします。四垂れまたは八垂れの紙垂をさげます。細い縄を使うこともあります。

おふだのまつりかえ
天照皇大神宮と氏神さまの御神札は、毎年お正月を迎える前に、新しいものにまつりかえます。一年間おまつりし古くなった御神札は、氏神さまにお返しします（旅行先などで戴いた御神札やお守りなども一緒に納めて結構です）。

忌服について（ご不幸が生じた場合）
家族にご不幸が生じたら、お供えと拝礼はしばらく中止し、神棚に半紙を貼ります。忌が明けた後に、半紙を取り除き、お供えと拝礼を再開します。一般には五十日祭（仏式の四十九日）の終了をもって忌明けとします。お正月がこの期間に重なった場合は、忌が明けた後、すみやかに新年の御神札を受けましょう。または五十日の期間中に御神札を受けておき、明けてからおまつりすることもできます。

※ 神棚について、より詳しいことは地元の神職にご相談下さい。

（連絡先） 埼玉県神社庁

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町一四四七一

電話 048-643-3542

http://www.saitama-jinjacho.or.jp/